

USE 工事情報共有パッケージをベースに 旭化成ホームズ様と構築をした 『工事報告書自動保管システム』のご紹介

**撮影・録音
禁止**

2024/11/22
株式会社ユニットシステムエンジニアリング
第二ソリューション部 課長補佐 花井 健之

AsahiKASEI
旭化成ホームズ

住まいを通じて
“安心して豊かな暮らし”を実現します。



住まいと暮らしをトータルに支える事業を展開

旭化成ホームズ、旭化成不動産レジデンス、旭化成リフォームの3社を中心に、
多様な専門性を持つグループ会社为一体となって安心して豊かな暮らしを実現します。



3階建て住宅

強靱な躯体が叶える、ダイナミックな空間

日本初の工業化3階建て住宅を誕生させた、ヘーベルハウス。ビル建築で多く採用されるラーメン構造を、戸建住宅用に進化させた「重鉄・システムラーメン構造」を採用しています。強靱な鉄骨躯体だからこそ実現できる、自由度の高い設計対応力で、豊かでダイナミックな住空間を提案しています。



重鉄構造が可能にする自由な大開口

二世帯住宅

一緒に暮らす価値を最大限に広げる住まい

1975年に業界で初めて二世帯住宅を提案したパイオニアとして、「ナイスセパレーション（分ける工夫）」と「ナイスシェアリング（シェアする工夫）」のバランスを熟慮した住まいを提案しています。親世代・子世代・孫世代、それぞれのライフスタイルが多様化する中でも、一緒に暮らす価値と喜びを広げる住まいを提供しています。

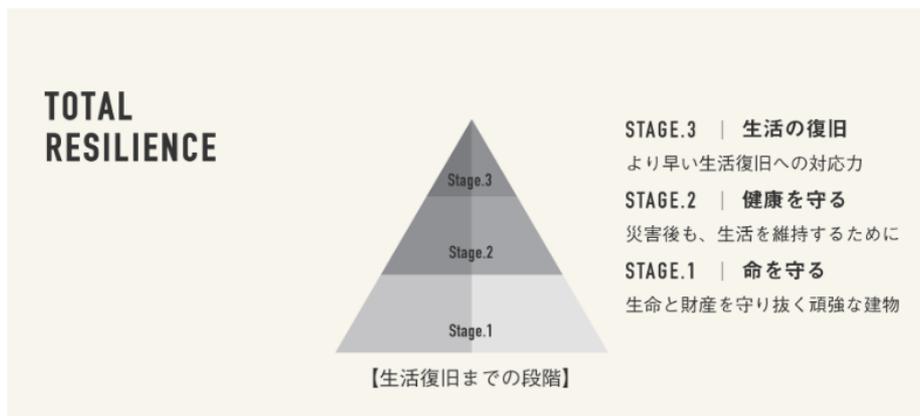


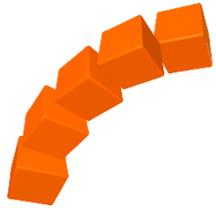
夫の親と暮らす息子夫婦同居二世帯住宅「DUO（デュオ）」

トータルレジリエンス

「わが家」こそ、もっとも安心な場所に。

地震、台風、火災や水害といった災害から、人々のいのちや暮らしを守り抜く住まいであるために、総合防災力「トータルレジリエンス」の強化に力を入れています。





工事報告書保管業務の問題点と

USEパッケージご導入の背景



※USE : ユニットシステムエンジニアリング

業務の問題点とUSEPKGご導入の背景

システム導入前



職方

職人は資料を元に必要な写真を確認しながら撮影を行っていた。

下請

工事報告書の作成は事務所に戻って作成と提出を行っていた。

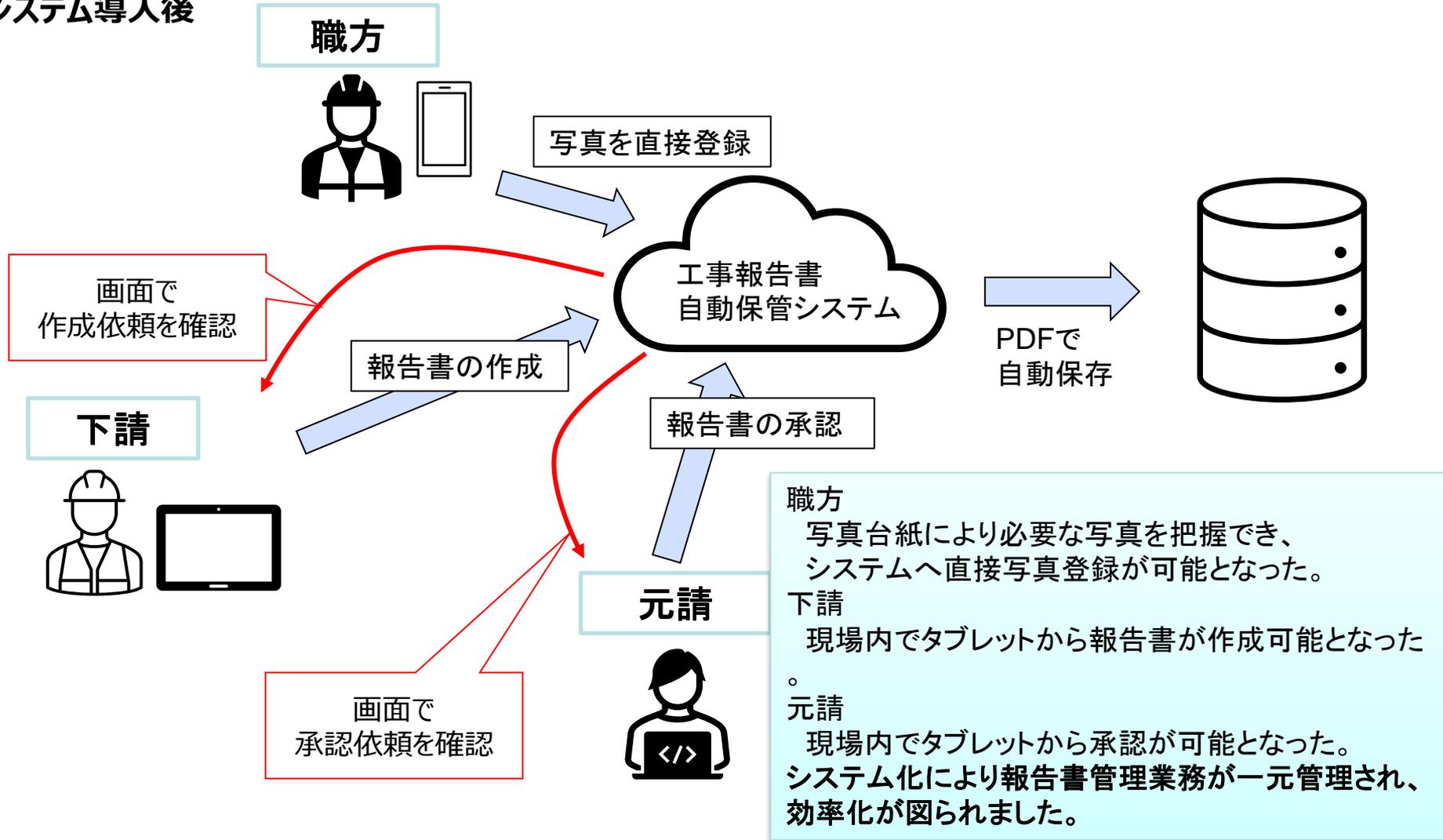
元請

報告書の作成や承認は事務所へ戻って行っていた。

働き方改革へ向けての効率化が必要となっておりました。

業務の問題点とUSEPKGご導入の背景

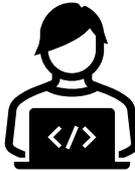
システム導入後



USE工事情報共有パッケージのカスタマイズポイント

担当の役割ごとに確認すべき報告書を色分けして、一目で判断出来るようにしました。

水色を確認



元請

ピンクを確認



下請

パッケージ機能であるイベント管理表では報告書が工事ごとに全て表示されます。
それぞれの枠に色を付ける事により、各担当が作業すべき工程が一目で分かるようになっています。

イベント管理表 ログアウト

現場一覧 > イベント管理表 ☐ 複数選択(Ctrl)

工程編集: 詳細編集 業者入力 開始実績 完了実績

検査報告: 図書一覧 報告書作成

表示パターン切替: 全工程表示

現場名称	本職		本職		原価課		本職		本職	
	完了(予)報	業者名	完了(予)報	業者名	完了(予)報	業者名	完了(予)報	業者名	完了(予)報	業者名
現場A	09/01休	常〇〇	10/03	常〇〇	09/02	〇〇〇〇	09/11	常〇〇	09/16	油〇〇
	09/30	XX XX	09/30	XX XX	10/01			XX XX		
現場B	09/05	常〇〇	-	-	09/05	〇〇〇〇	09/17	未設定	09/17	未設定
		XX XX								

1~2件目/2件中

工程編集

×

工程追加

工程削除

工程確定

表示フィルター

現場コード

現場名称

号種

担当者

帳票

Excel出力

システム導入後の効果

旭化成ホームズ様サイトより抜粋

A-Skai 導入による働き方改革

A-Skai 工事報告書とは

施工現場において高い品質を安定して維持していく品質管理の仕組み(LLQCS:ロングライフオリティコントロールシステム)を運用しています。この仕組みで利用するチェックシートや施工の写真は、品質を確認し、担保するための証拠として非常に重要な役割を持っています。これらの重要な記録を確実に保管するためには、担当者の負担を軽減することも重要な観点となることから、タブレットを利用した自動保管システム「A-Skai 工事報告書システム(通称 A-Skai)」を開発しました。

このシステムの導入により、現場に携わる多くの人の業務が変わりました。

A-Skai による効率化の概要

■ 職方

1. 写真台紙により必要な写真の把握を可能に

報告書に必要な写真撮影を行います。従来は職人は資料をもとに必要な写真を確認しながら行っていました。しかし A-Skai により、現場で写真台紙に基づき必要な写真を把握できるようになりました。

2. 写真撮影時に工事黒板の準備が不要に

写真撮影を行う際、従来は毎回工事黒板を持参し、撮影詳細を記入していました。A-Skai により、工事黒板が自動化されたことで効率化されました。

3. システムへ写真の直接登録が可能に

現場撮影した写真は、これまで本体工事店の事務所へデータを持参するか、メールで送っていました。A-Skai により、システム内で写真を直接登録が可能となったため、大幅に手間が減り、タイムリーな写真提出が可能となりました。

AsahiKASEI

環境・社会報告書 2019 CSRの取り組み

旭化成ホームズ株式会社

旭化成ホームズ様サイトより、抜粋

■ 本体工事店(現場責任者)

1. 現場完結型の業務へ

報告書の作成は、事務所へ戻らなければ提出ができませんでしたが、A-Skai により、現場内でタブレットから報告書の作成が可能となったことで効率化されました。

2. 写真登録の効率化

報告書の作成に必要な写真を揃えるため、職人からのデータを取り寄せていましたが、職人が現場で撮影登録が可能な現場自己完結型となり、タイムリーな報告書作成が可能となりました。

3. 最新のチェックシートへ自動更新

最新の仕様に合わせた報告書の作成が必要なため、都度、必要なチェックシートの運用を正しく行えるように管理していましたが、A-Skai により、チェックシートが自動更新されるようになりました。

■ 工事担当

1. 現場完結型の業務へ

報告書の作成や承認作業は、事務所へ戻らなければなりませんでしたが、A-Skai により、現場でタブレットから報告書の作成や承認が可能となったことで効率化されました。

2. 電子化により業務削減

報告書は紙で運用されていたため、管理やメール送受信時の負荷がありましたが、A-Skai により電子化され、ペーパーレスで業務を行うことができるようになりました。

3. 一元化による管理が可能

工事進捗の管理を行うために、現場確認や電話確認を行っていましたが、A-Skai により現場の情報が一元化され、タイムリーな情報収集が可能となりました。

4. 報告書のチェックと管理が容易に

報告書がすべて揃っていることの確認や、消失および紛失防止の管理を行っていましたが、A-Skai により、自動保管やシステムによる管理が可能となりました。

働き方改革

日々、多くの技術者が「ヘルパハウスをより良くするため、“三現主義”で業務に取り組んでいます。これまでの在り方を一新し、現場完結型の業務へ移行していくことが重要です。その役割の一端を担っているのが A-Skai です。エビデンスの確実な記録・保管を前提に情報が一元化され、工事担当・本体工事店・職方といった関係者全員のタイムリーな業務が可能となりました。これにより工事報告書業務の品質向上と効率化が実現しました。また既存のシステムとの連携が可能なアプリを導入したことで、現場で設計図書等の閲覧が可能となり、ペーパーレス化が促進され、今後さらなるフレキシブルな対応も期待されます。働き方改革への大きな一歩です。

ご清聴ありがとうございました

事例紹介の内容につきましては、
旭化成ホームズ株式会社様並びに
日本電気株式会社様関係各位様に
ご協力をいただきました。
厚く御礼申し上げます。

USE

【お問い合わせ】

U R L : <http://www.use-i.co.jp/>
E - Mail : use-info@use-i.co.jp